

遺児らの大学進学を支え、理系人材を育てる長期プロジェクト

「あしながMUF G奨学基金」創設

病気、災害、自死などで親を亡くした子どもや、親が障がいでも十分に働けない家庭の子どもを支える一般財団法人あしなが育英会は、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下MUF G、亀澤宏規社長）と、高等教育を支援する給付型（返還不要）奨学金制度創設で合意しました。



コロナ禍で加速したデジタル化やAI

（人工知能）普及に対応するため、経済的苦境にある遺児らの大学進学を支援し、とりわけ日本に不足している理系人材（医療・保健分野を含む）の育成をめざします。想定される奨学金給付対象者は1,000人以上。今年度から学生への振り込みを開始します（具体的日程は検討中）。あしなが育英会は高い志と学習意欲をもった遺児学生らの選考と学習環境のサポートを行い、MUF Gは毎年度、資金を提供します。日本を代表する企業グループとNPOによる画期的な教育支援長期プロジェクトがスタートします。

◆写真説明＝2021年度の寄付（5億円）に対し、玉井本会会長（前列左）から亀澤MUF G社長（同右）へ感謝状を贈呈しました。亀澤社長には理系学部で学ぶあしなが奨学生4人（後列）の目標や支援者への感謝の気持ちを聞いていただきました（2022年8月18日、あしなが育英会本部）

◇ 「あしながMUF G奨学基金」による奨学金の内容

目的	内容	対象者
① 大学進学支援	高3生に受験費用（交通・宿泊費含む）30万円給付	約800人
② 理系大学生支援	入学から卒業まで毎月4万円給付（返還不要）	約300人

亀澤宏規・株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ社長

「玉井会長が始めた『あしなが運動』の半世紀の歴史と進学実績、取組み姿勢に感銘を受けた。逆境に負けない遺児学生の大学進学と理系人材育成のお手伝いをしたい」

玉井義臣・一般財団法人あしなが育英会会長

「コロナ禍で経済、教育格差は拡大した。MUF Gの決断はこの格差是正に取り組む本会への力強いエールであり、日本企業の寄付文化を変えるほどの意義があると思う」

記者説明会 9月13日（火）16時、本会（千代田区平河町・砂防会館本館4階）

◆ 上記日時を報道解禁時間とさせていただきます ◆

担当:あしなが育英会広報部長 川本淳 [メール kawamoto.a@ashinaga.org](mailto:kawamoto.a@ashinaga.org), 携帯 090-7271-1031